

Y18a **PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループ5年間の活動**

殿岡 英顕、下条 圭美 (国立天文台)、矢治 健太郎 (立教大学)、時政 典孝 (西はりま天文台公園)、PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループ

PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループ (PAO ひので) は太陽観測衛星「ひので」データの公開天文台・プラネタリウム・科学館等の科学教育施設での活用の推進を目的とする公開天文台ネットワーク (PAONET) のワーキンググループで、「ひので」打ち上げ直前の2006年5月に結成された。このワーキンググループの特徴の一つとして、科学教育施設の人のみならず、国立天文台ひので科学プロジェクトが関わり、人材面資金面で活動をバックアップしていることが挙げられる。

活動としては、教育・啓蒙用のショートムービーを収録したDVD「ひのでが見た太陽」、“The Sun Captured by Hinode”、「太陽のなぞに迫る」の作成及び配付、絵本「たいようのおくりもの」作成、科学データを使った教材の作成及び実践、高校との共同観測、プラネタリウムなどで上映できるフルドームムービーの作成など、教育広報 (E/PO) 活動を手広く行なって来た。また、2011年4月にJAXA 宇宙理学委員会で公表された「ひので衛星運用延長審査報告書」では、PAO ひのでによるアウトリーチ活動が高く評価され、「ひので」衛星の3年間のミッション延長に貢献した。

今回の発表では、「ひので」の打ち上げから5年が経過し一つの区切りとしてこれまでの5年間のワーキンググループの活動を総括し、今後について議論する。